



料金後納

ゆうメール

冬号

# ナーク便り

内 容

2022.1

P2 ■ 監督補助現場インタビュー

P4 ■ 助成事業について

P7 ■ オンライン研修について

■ 学習コーナー Q&A

P8 ■ ナーク便り創刊3周年記念プレゼントキャンペーン



「生月大橋」(令和3年11月29日 道の駅 生月大橋から撮影)

「ながさきサンセットロード」  
～橋でつながる教会と歴史の道～



(公財) 長崎県建設技術研究センター

Nagasaki civil Engineering Research Center

略称はナーク(NERC)です

# 監督補助現場インタビュー

当センターには、品質管理課職員及び監督幹22名が在籍しています。現場に常駐して、土木工事の品質を確保するため、日夜活躍しています。

監督補助は、一般的な土木工事から大規模なトンネルや橋梁の新設工事、また、橋梁塗装や補修工事などの維持工事において、発注者の監督職員に代わって、適正な品質を確保するための品質確認や工事管理を行います。県工事のみならず、市町の工事においても監督補助の実績があります。

今回は、橋梁補修の現場へ行って監督幹にインタビューしてきました。

## 今日の現場：

### 主要地方道平戸生月線橋梁補修工事（生月大橋）

生月大橋（いきつきおおはし）は、平戸島と生月島の両島を隔てる辰の瀬戸を跨いで連絡する道路橋（トラス橋）です。開通当時は有料道路でしたが、現在は無料で通れます。また、長崎西部の美しい海岸沿いの道路（国道202号、国道499号など）をメインルートとした「ながさきサンセットロード」の一部でもあります。

令和3年度（12月末工期）、当センターは生月大橋の橋梁補修工事の監督補助業務を長崎県から受託しました。

## 生月大橋

形式：3径間連続曲弦下路鋼トラス橋

橋長：960m(前後の高架橋を含めると1,332m)

最大支間長：400m、幅員：6.5m

## 位置図



## 観光情報

生月島の西海岸部に沿って、約10km。信号がひとつもなく、海沿いの道が続いています。水平線が見渡せ、夕方には綺麗な夕陽が見える生月サンセットウェイは、自動車各社のCMロケ地として有名なドライブロードです。平戸にお越しの際はぜひお立ち寄りください。



インタビューの様子

今日の監督幹  
技術部 品質管理課  
**川崎** 監督幹



塗装補修の現場

## 監督幹紹介

「今日の現場」で活躍している川崎監督幹を紹介します。川崎監督幹は橋梁のベテラン技術者で、51年間にわたり鋼橋の設計・現場施工に携わり、多くの経験を持っています。生月大橋の監督補助業務は、9年目になります。

### <趣味>

これまで北海道から九州の現場を担当する中で、休日を利用して観光地へのドライブや散策がリフレッシュもかねて楽しみでしたが、コロナ禍で県外へはなかなか出かけることができないため、長崎県内の過去に据付けた橋梁・可動橋・水門そして変化した地域を見に出掛けています。

## ～川崎監督幹に仕事内容を聞いてみました!～

### Q. 監督幹って何をする仕事?

**A.** 監督幹の仕事は、受注者の現場で使用している使用材料や施工方法等が、発注者から提示されている設計図書のとおり施工されているかどうかを直接現場に行き確認します。施工状況を確認（段階確認・立会確認）し、発注者へ報告するとともに、各工事ごとに既済部分検査、完成検査等にも臨場しています。



ケレン作業の様子

### Q1. 仕事をするうえで気を付けていることは何ですか？

**A1.** 今ある橋梁を長く利用するためには、老朽化し損傷してしまった橋梁を修繕しながら利用していくことが必要です。鋼橋の補修を行う際、ケレン作業（さび落とし作業）や塗装が、橋の品質を左右する要素となります。そこで、品質を確保するため、ケレン状況はどうか、塗装の塗り残しはないか、塗膜厚さは大丈夫かななどの品質検査を行っています。

### Q2. 鋼橋のケレン作業や塗装時に特に注意が必要なことはありますか？

**A2.** さびは、湿度が70%以上になると急速に発生すると言われています。そのため、湿度が高いとケレン作業後にさびが再び発生することがあります。これを”戻りさび”と言い、鋼材が露出している時間が長いと”戻りさび”が発生することがあるため、狭い箇所も受注者に塗り残しがないように隅々まで刷毛で塗装してもらっています。



超厚膜形塗料カップ注入の様子

超厚膜形塗料をボルト頭にカップ注入しているところです。

### Q3. 生月大橋の橋梁補修で特に気を付けていることは何ですか？

**A3.** 生月大橋周辺は、風が強く、鋼橋にとって厳しい環境にあります。特に強風時には波しぶきにより塩分が付着するので、受注者に除去してもらう必要があります。補修の品質確保のために風予報を活用し、常に気を配っています。

### Q4. 長年にわたり生月大橋の橋梁補修監督補助をされて感じることはありますか？

**A4.** 受注者も他の現場と違い、下塗りを2回塗るなど工夫しており、長寿命化につながる品質向上のための努力や技術力向上を感じます。



上塗の様子

### インタビューを通して（感想）

厳しい環境にある生月大橋がどのように補修されているか学ぶことができました。また、「補修しても時間が経てば、錆が発生する」と話を聞き、定期的な補修が必要なことや損傷を見つける点検の重要性も感じることができました。

インタビューアー 企画情報課 長浦・垣添

# 助成事業について

～県内の建設産業を側面からサポートします～

## 1. 今までの建設産業支援

当センターが主催していましたが「ながさき建設技術フェア」は、各方面より「新技術・新製品等の情報提供」を求める声の高まりを受け、建設技術者の技術力向上を目的とした建設産業支援事業として、平成16年から毎年開催しました。しかし、来場者数が平成26年をピークに、年々減り続けたことから、令和元年10月の第16回開催をもって終了しました。



ながさき建設技術フェアの開催状況

## 2. 建設産業の課題

### i. 市町の建設行政の課題

市町の建設行政は、少子高齢化の影響を受け、人員不足・技術力不足や新規入職者の減少等の課題に直面しており、更に今後急速に進む人口減少等の影響を最も受けると予想されることから、当センターが行っている事業の支援拡大に加え、市町職員の技術力向上に資する新たな支援が求められています。

### ii. 建設企業の課題

建設業の担い手確保・育成支援に関して、当センターは令和元年度から土木施工管理基礎研修を事業化し実施しています。この研修に対し、県は離島企業の負担軽減のため受講経費の一部を助成していますが、令和3年度までの限定的措置となっています。離島企業は地理的な理由から負担が大きいため、支援が求められています。

### iii. 建設産業の課題

建設業を取り巻く喫緊の課題として公共工事の長期に渡る品質確保が挙げられ、新たな課題に対応するため令和元年度には新・担い手3法が施行されました。これを受け、働き方改革促進による建設産業の長時間労働の是正や情報通信技術の活用等による生産性向上などが官民で取り組まれ、建設技術の発展に資する新技術・新工法の研究や実用化がより一層進められています。しかしながら、県内企業等が開発し商品化されたものは依然として少ない状況にあります。

## 3. 助成事業の創設

当センターでは今後の人口減少社会、とりわけ生産年齢層の減少などを見据えた第3期中期事業計画（R2～R6）を策定し、この中で、社会資本の品質確保に向けた新しい側面支援の立ち上げを目標に掲げ、建設産業支援として「助成事業」を創設し、研究開発や人材育成等の側面支援を行うこととしました。



今回は、令和4年から行う以下の概要を紹介します。

- ①「市町職員土木技術実務研修事業」
- ②「離島建設技術者育成事業」
- ③「ながさき建設産業助成事業」

## ①市町職員土木技術実務研修事業

### Q1. 目的は？

**A1.** 市町の土木技術者不足が課題となっているため、経験の浅い若年技術者や今まで土木行政に関わった経験がない職員に向けた技術力向上の支援が目的です。

### Q2. 助成の概要は？

**A2.** 長崎県市長会及び長崎県町村会から派遣の推薦があった市町職員を対象に当センターの指揮下でOJT、OFF-JTを行う「市町職員土木技術実務研修」を実施します。

この研修期間中に発生する人件費（共済負担金を含む）を全額助成します。

研修期間は原則1年間です。

### Q3. 「市町職員土木技術実務研修」への派遣について

**A3.** 長崎県市長会及び長崎県町村会からの推薦を基に決定します。

※派遣を希望する職員個人や市町から当センターへ直接「市町職員土木技術実務研修」の申込みはできませんのでご注意ください。

### Q4. 市町職員土木技術実務研修の内容は？

**A4.** 主な研修内容は、当センターが行っている業務に従事するOJTを中心として、研修生にあったOFF-JTを行います。

#### OJT

- 積算  
土木工事の積算業務
- 橋梁点検  
長崎県の重点維持管理橋梁の点検業務

#### OFF-JT

- センター開催の一般研修  
ドローン研修など
- 県土木部が実施する階層別研修など  
初級技術（Ⅰ）・災害実務など
- 現場研修  
監督補助業務の現場など

※土木系学校の卒業の有無、経験年数等により、研修内容を変更する場合があります。

### Q5. 研修中の身分は？

**A5.** 市町職員の身分を有したまま、センター職員の身分を併せ有することになります。

### 市町職員土木技術実務研修事業 フロー図（簡易版）

長崎県市長会・長崎県町村会  
から派遣の推薦  
（派遣推薦書の提出）



市町職員土木技術実務研修  
研修生決定



研修の実施



助成金支給

## ② 離島建設技術者育成支援事業

### Q1. 助成の概要は？

**A1.** 本事業は、離島における建設技術者の人材の確保・育成の支援が目的で、当センターが令和元年度から実施している土木施工管理基礎研修（以下基礎研修）の受講者のうち、離島地域※に本店又は主たる営業所を有する企業の社員で、本人も離島地域に居住している受講者に対し、**本研修の修了を条件**に受講期間中の旅費・宿泊費を助成するものです。  
※離島地域は離島振興法指定地域が対象となります。

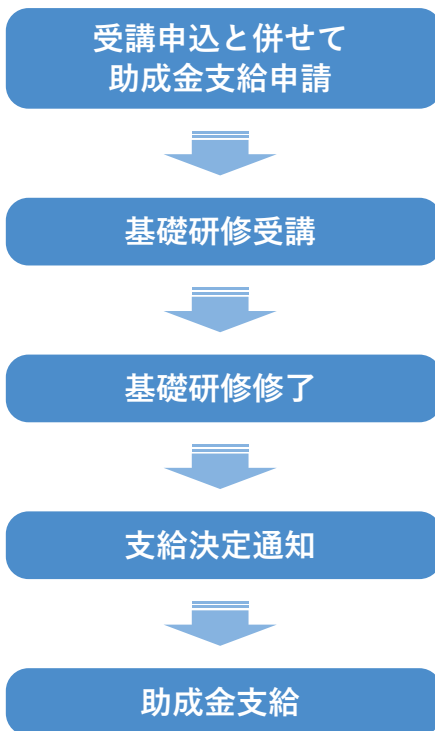
### Q2. 助成額は？

**A2.** 受講者1名につき一律122,000円（予定）を支給します。

「土木施工管理基礎研修」の詳細はこちらにアクセス  
[https://www.nerc.or.jp/training/civil\\_basic/](https://www.nerc.or.jp/training/civil_basic/)



### 離島建設技術者育成支援事業 フロー図（簡易版）



## ③ ながさき建設産業助成事業

### Q1. 助成の概要及び助成額は？

**A1.** 長崎県民の安全安心な暮らしや健全な発展のために必要不可欠な建設分野における研究活動・広報活動や担い手育成に寄与する活動の支援を目的とし、以下の活動に対し助成金を支給します。

- ① 建設技術の発展に資する新技術・新工法の研究活動（年間上限100万円 最長2年）
- ② 行政からの支援要請を受けて行う新技術・新工法の研究活動（年間上限100万円 最長2年）
- ③ 新技術・新工法・新製品の広報活動（年間上限20万円 最長2年）
- ④ 社会資本整備を担う人材を育成する教育機関の活動（年間上限20万円 最長5年）

※助成額はいずれも活動1件当たり

### Q2. 助成対象者は？

**A2.** 民間企業・団体（何れも長崎県内に本店又は主たる営業所を有すること）及び長崎県内の教育機関（大学・高校等）が対象となります。

### ながさき建設産業助成事業 フロー図（簡易版）



## 最後に

以上が助成事業の概要となります。詳細につきましては、令和4年2月以降に当センターのホームページに掲載予定です。是非ご活用ください。

**今後とも当センターは県内の建設産業の健全な発展を支援してまいります！**

# オンライン研修について

## オンライン研修実施について

離島や半島等地理的ハンディキャップのため、センターの集合式研修を受講することが容易でない市町や民間の建設技術者の継続学習の支援を行うため、令和4年7月頃から実施予定です。

従来の対面式の一般研修と異なり、申込み期限を過ぎると研修を受けることができません。また、受講に必要な機材の事前準備が必要ですのでご紹介します。

## 受講の手順

研修  
30日前

### 申込み

当センターHP「お知らせ」より研修のご案内をします。  
以下のデータをメールにて送信してください。

- ①HPよりダウンロードした申込書（後日公開）
- ②CPDS・建築CPD登録者証のスキャンデータまたは写真データ

研修  
10日前

### テレビ会議 システムの 通信テスト

当センターよりメールで送られたテスト用URLにアクセスし、音声や動作に異常がないか確認してください。  
会議システムは「Webex Meetings」を使用します。  
※異常があれば当センターまでご連絡してください。

### 研修当日

当センターよりメールで送られた研修のURLにアクセスし、研修を受講してください。  
テレビ会議システムに入って氏名を入力してください。

## 受講に必要な機材

### 1. パソコン・タブレット端末等(10インチ以上)

受講者1人に1台必要です。

### 2. Webカメラ・スピーカー・マイクがパソコンなどに内蔵されていない場合は別途必要になります。

### 3. インターネット環境

オンライン研修はテレビ会議システム「Webex Meetings」を使用します。  
受講中は双方向で映像・音声データのやり取りを行い、インターネットを通じて大容量の packets 通信を繰り返すため、パケット定額サービス等の利用をお勧めします。

## 学習コーナーQ&A

(技術部 技術支援室 TEL0957-54-1691)

建設発生土の現場利用についての問題です。【 】のA、Bに当てはまる適当な語句を回答して下さい。

1. 高含水比状態にある材料あるいは強度の不足するおそれのある材料を盛土材料として利用する場合、一般に【 A 】乾燥等による脱水処理が行われる。
2. 石灰・石灰系固化材と土との反応はかなり緩慢なため、十分な【 B 】期間が必要である。

解答 A：天日 B：養生

# ナーク便り 創刊3周年記念 プレゼントキャンペーン



ナーク便りの記事や当センターに関するご意見をいただき、今後の記事の参考や、センター業務の品質向上につなげるためアンケートを行います。

ナーク便りについてのアンケートにご回答いただきました方のうち、抽選で**3千円分のAmazonギフト券**を**10名様**にプレゼントいたします。

## お申し込み方法

プレゼントキャンペーンの問い合わせ先  
TEL: 0957 (54) 1649 (企画情報課 企画研修班)

- ①当センターホームページ「お知らせ」、ツイッターからアンケートページへアクセス
- ②アンケートに回答し、送信ボタンを押して申込み完了です。

**申込み締め切り：令和4年2月28日**

当センターのTwitter (@NERC1657) をフォローしていただくと**当選確率がアップ**いたします。

条件1) 抽選時にフォロー中の状態になっていること

条件2) アンケート設問12にTwitterアカウント名を入力すること

注意：抽選時にフォロー解除になっていた場合は、当選確率アップは無効とさせていただきます。



ホームページ  
QRコード

ホームページ  
<https://www.nerc.or.jp>

ツイッター  
@NERC1657



ツイッター  
QRコード



(公財) 長崎県建設技術研究センター

〒856-0026

長崎県大村市池田二丁目1311番3

TEL:0957(54)1600 FAX:0957(54)1505